

南鳥島の概要

島の位置

- ・ 東京から約1,950km離れた日本最東端の島
- ・ 北緯24度18分（石垣島、西表島と同程度）
- ・ 東経153度58分（シドニー(豪)よりやや東）
- ・ 移動に要する時間

航空機(防衛省)	東京から片道約4時間
船舶	横須賀港から片道約4~5日間
- ・ 住所は東京都小笠原村南鳥島(無番地)

島の概要

- ・ 1辺約2kmのほぼ正三角形状（面積約1.51km²）
- ・ 周囲をサンゴ環礁に囲まれている
- ・ 最高標高9mの平坦な地形
- ・ 海上自衛隊管理の滑走路あり（昭和11年に建設）
- ・ 現地には政府職員約25名が駐在

気象庁約：10名（気象観測）
海上自衛隊約：10名（国境警備、輸送支援）
国土交通省関東地方整備局：3名（港湾整備、水域管理）
- ・ (独)JAMSTEC（気象海象観測）、(独)JOGMEC（鉱物資源調査）等が周辺海域で活動



海上保安庁撮影

南鳥島の歴史

- 約20万年前 隆起して島となる。
- 1864(元治元) 米国船モーニングスター号が来訪。マーカス島と命名。
- 1896(明治29) 母島より46人が移住。
- 1898(明治31) 「南鳥島」と命名され、東京府小笠原島庁に編入(7月24日)
- 1902(明治35) 米国が領有を試みてハワイから軍艦を出航させるが、それを察知した日本は軍艦「松島」を派遣し、先に上陸して牽制。島で小競り合いが起こったが、日米協議により日本領が確定。
- 1933(昭和8) 産業振興不振(海鳥、リン鉱石の枯渇)により全島民が撤収。無人島となる。
- 1935(昭和10) 海軍気象観測所開設。海軍水路部気象班により観測開始
- 1936(昭和11) 海軍大演習に合わせて飛行場建設
- (昭和18~昭和20) 米国の艦砲射撃、空襲 戦死者:191名。
- 1952(昭和27) サンフランシスコ条約により、米国の正式軍政下に入る。
- 1968(昭和43) 米国より返還され、東京都小笠原村に属する。
海上自衛隊南鳥島航空派遣隊を編成。
- 1993(平成5) 南鳥島ロランC局運用業務(昭和38年から米国沿岸警備隊が実施)を海上保安庁が引き継ぐ。
- 2006(平成18) 台風12号の接近に伴い、返還後初めて滞在者全員が硫黄島へ避難(9月1日)
- 2009(平成21) 南鳥島ロランC局を廃止。平成22年度に海上保安庁職員が南鳥島から撤退。
- 2011(平成23) 国土交通省による特定離島港湾施設整備の着工。

特定離島港湾施設整備事業の概要

「低潮線保全法(平成22年6月施行)」※及び同法に基づく「基本計画(平成22年7月閣議決定、平成23年5月一部変更)」に基づき、本土から遠隔の地にある特定離島(南鳥島、沖ノ鳥島)において、海洋資源の開発・利用など排他的経済水域等の保全及び利用に関する活動拠点として、船舶の係留、停泊、荷さばき等が可能となる港湾施設(特定離島港湾施設)の整備を国土交通大臣が行うこととされている。

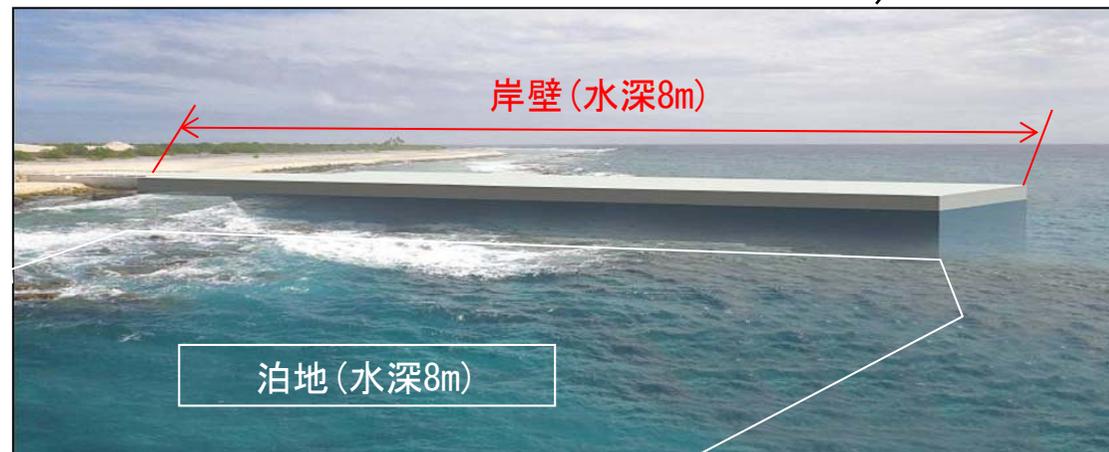
※低潮線保全法：排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用の促進のための低潮線の保全及び拠点施設の整備等に関する法律

【南鳥島特定離島港湾施設整備事業】

- ・ 整備内容 : 係留施設(水深8m・延長160m)、
泊地(水深8m)、附带施設
- ・ 平成22年度事業着手
- ・ 平成27年度末に船舶の利用が可能となるよう整備中



(完成イメージ)

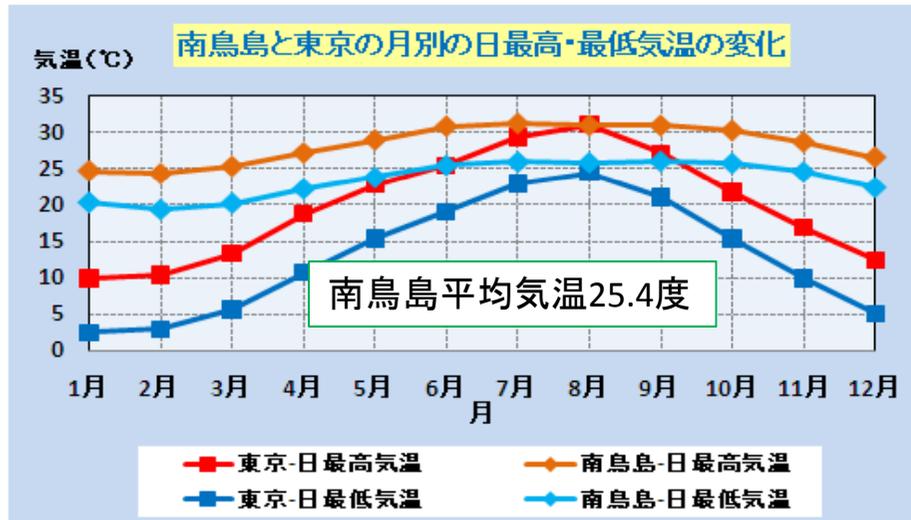


南鳥島の気象条件

【南鳥島の気象条件における特徴】

- ・ 熱帯気候と亜熱帯気候の推移帯にあり、温暖かつ年間の気温差が小さい。
(年平均気温25.4度)
- ・ 降水量は、本土に比べてやや少ない。
(年間降水量898.5mm (東京(1657mm) の約54%))

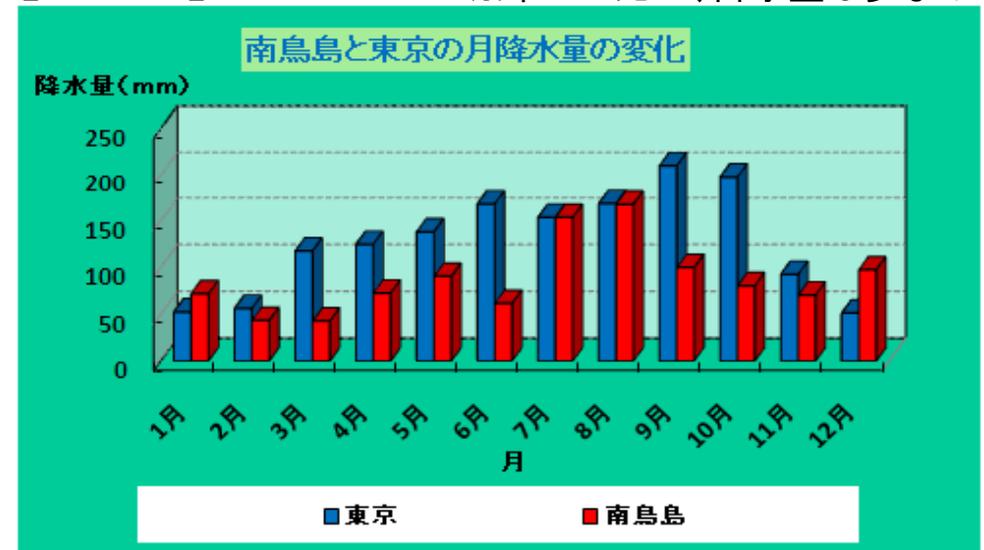
【気候】



出典: 気象庁HP

【降水量】

※本土に比べ、降水量は少なめ



出典: 気象庁HP

南鳥島の駐在人員

南鳥島では、第二次大戦以前は50名以上が生活していた時代もあったが、現在は政府職員（気象庁、防衛省、関東地方整備局）約25名が生活している。
船舶、航空機ともに民間の定期便はない。

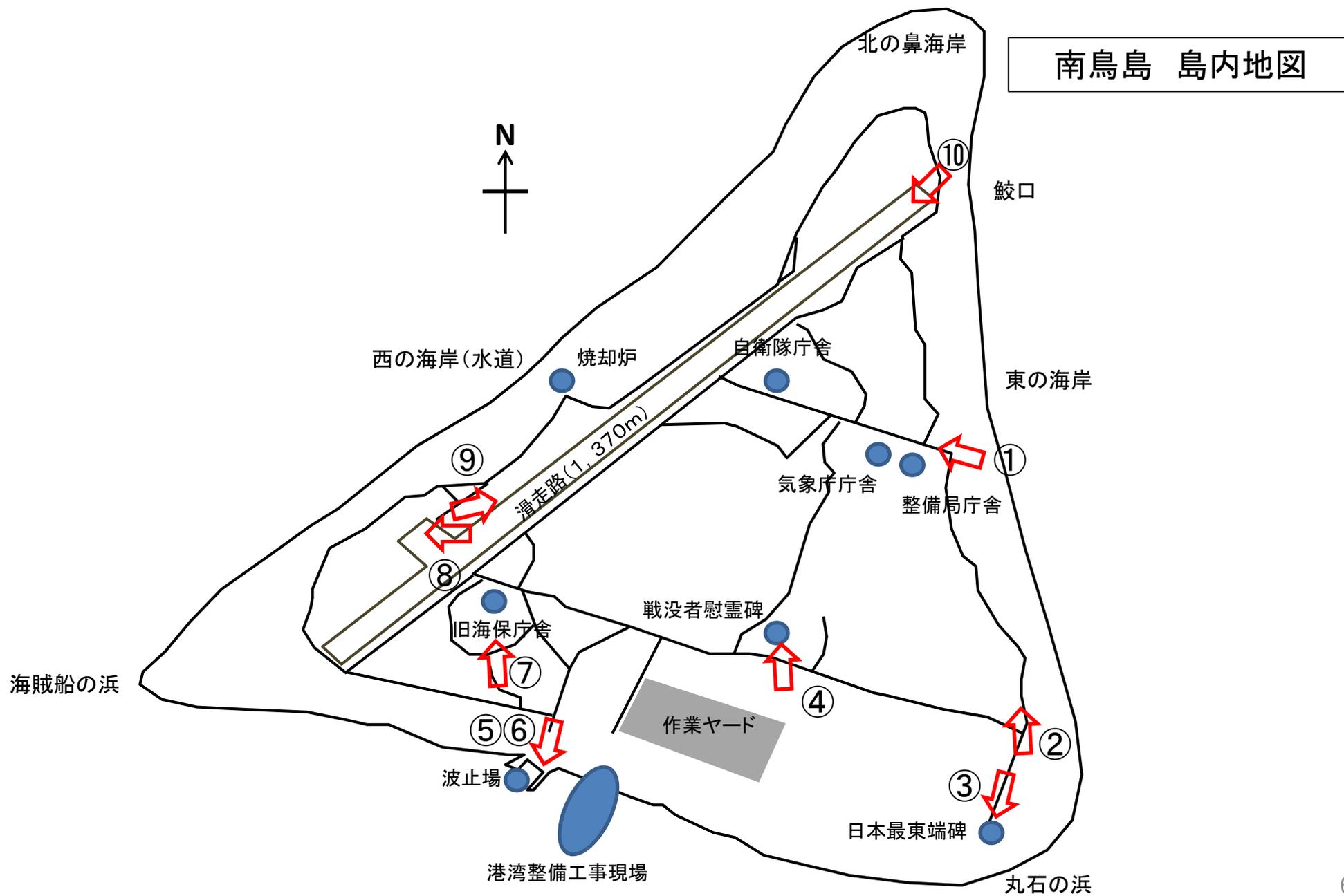
【南鳥島】

気象庁職員、自衛隊職員、関東地方整備局職員が現地に常駐し、公務を実施

○南鳥島に滞在する機関及び滞在人数

機関	実施業務	滞在人員
気象庁	気象観測（世界気象機関の全球大気監視計画に基づく観測を含む）	約10名
自衛隊	飛行場の維持管理（気象観測支援） 国境地域における警備活動	約10名
関東地方整備局	特定離島港湾施設の整備・維持管理 低潮線保全のための行為規制等	3名

南鳥島の現状



①自衛隊・気象庁・関東地方整備強の庁舎がある居住地区



②島内の道路状況



③日本最東端の碑



④戦没者慰霊碑



⑤波止場



⑥波止場（荷役作業時）



⑦港湾工事作業員の居住地区



⑧南鳥島飛行場駐機場



⑨南鳥島滑走路



⑩南鳥島滑走路全景

